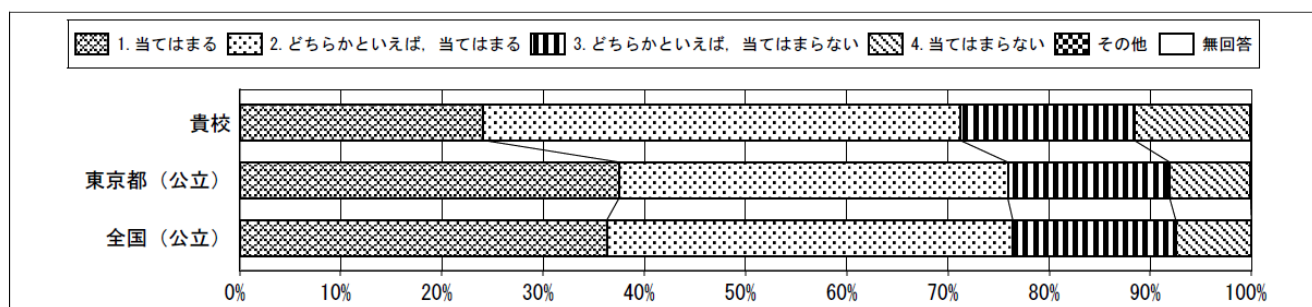


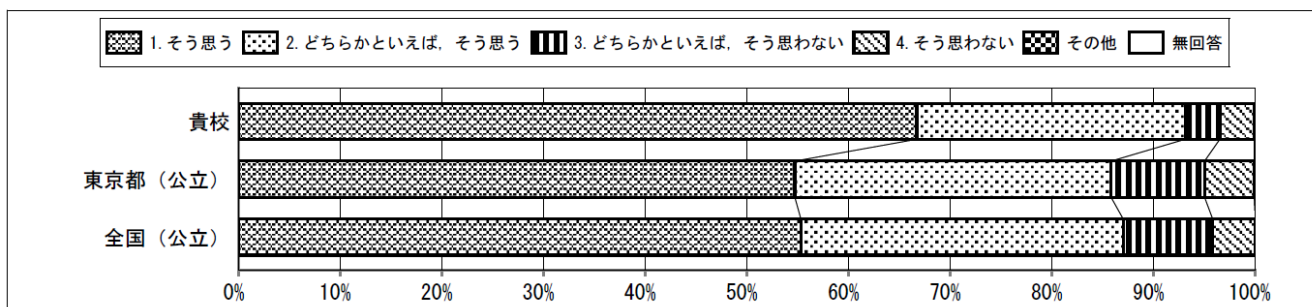
I 児童質問紙の回答結果

「当てはまる」の回答が、都の平均に比べて、10ポイント以上の差がある項目

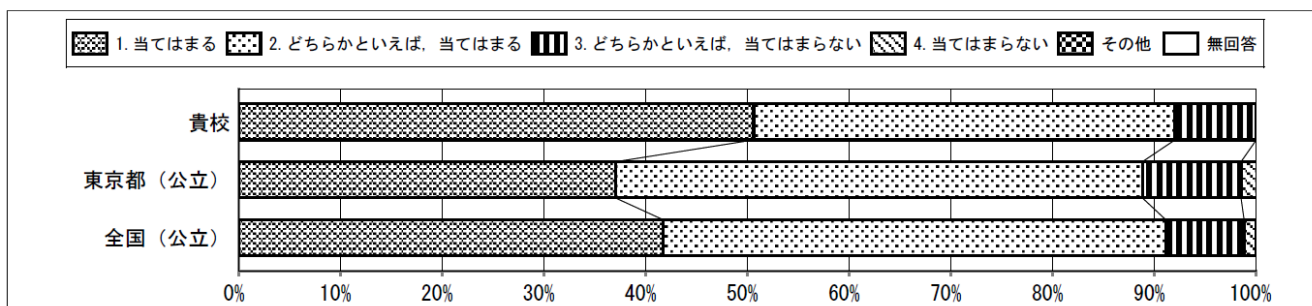
質問番号	質問事項									
(6)	自分には、よいところがあると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	24.1	47.1	17.2	11.5					0.0	0.0
東京都（公立）	37.5	38.4	16.0	8.0					0.0	0.1
全国（公立）	36.3	40.1	16.1	7.5					0.0	0.0



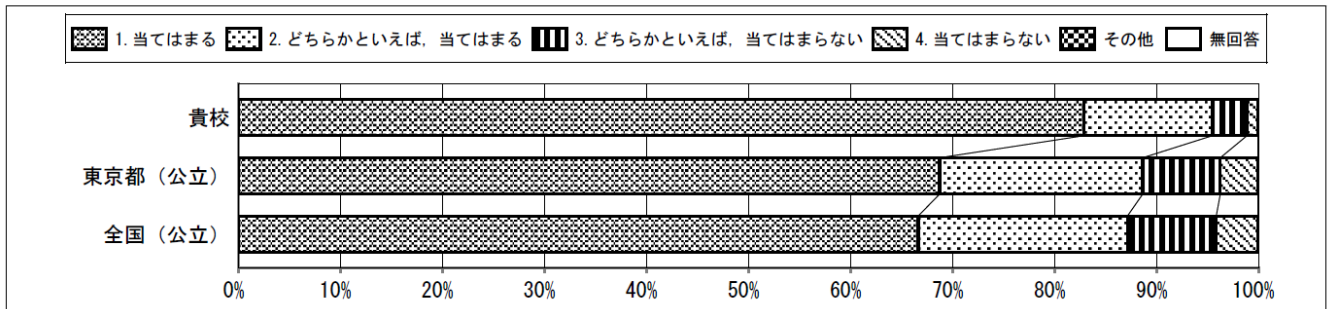
質問番号	質問事項									
(24)	学校に行くのは楽しいと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	66.7	26.4	3.4	3.4					0.0	0.0
東京都（公立）	54.7	31.1	9.2	4.9					0.0	0.1
全国（公立）	55.3	31.7	8.8	4.2					0.0	0.0



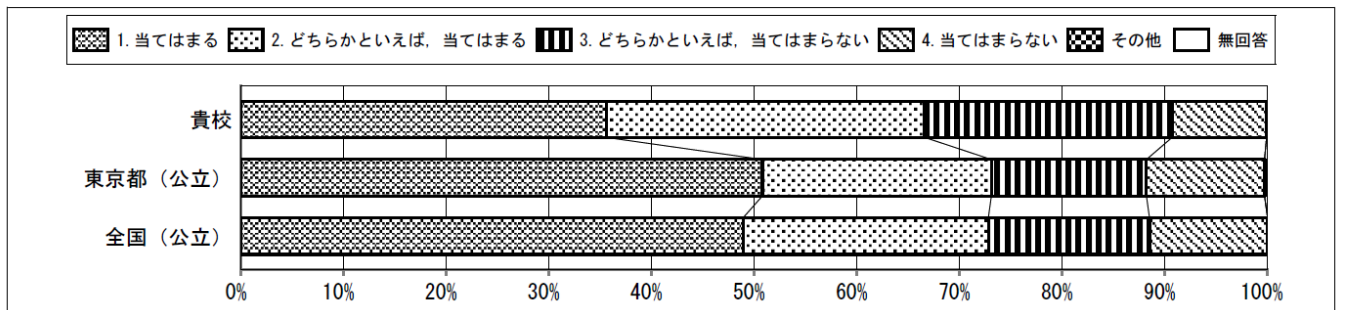
質問番号	質問事項									
(32)	学校のきまりを守っていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	50.6	41.4	8.0	0.0					0.0	0.0
東京都（公立）	37.0	51.8	9.7	1.6					0.0	0.1
全国（公立）	41.7	49.4	7.7	1.2					0.0	0.0



質問番号	質問事項									
(43)	5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	82.8	12.6	3.4	1.1					0.0	0.0
東京都（公立）	68.7	19.9	7.6	3.7					0.0	0.2
全国（公立）	66.6	20.5	8.7	4.1					0.1	0.1

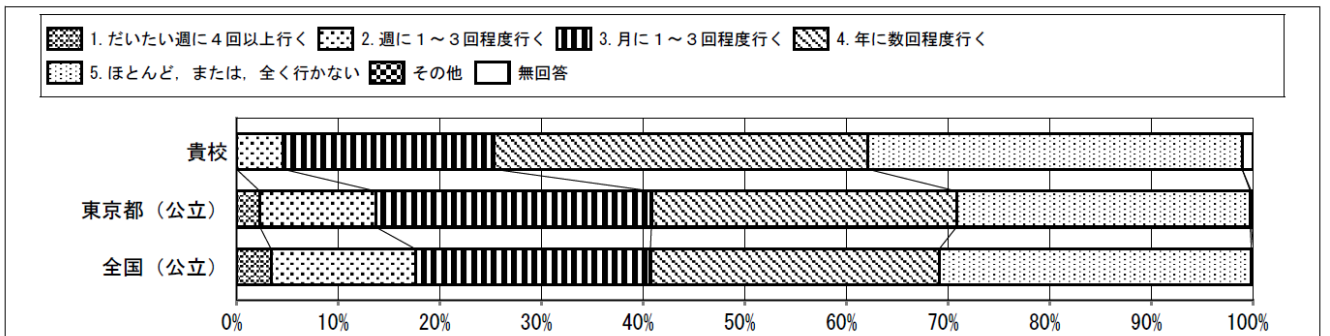


質問番号	質問事項									
(51)	読書は好きですか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	35.6	31.0	24.1	9.2					0.0	0.0
東京都（公立）	50.8	22.3	15.1	11.5					0.0	0.1
全国（公立）	48.9	23.9	15.7	11.5					0.0	0.1



【参考】学校図書館の利用状況

質問番号	質問事項									
(17)	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	0.0	4.6	20.7	36.8	36.8				0.0	1.1
東京都（公立）	2.3	11.4	27.1	30.0	28.9				0.1	0.1
全国（公立）	3.4	14.2	23.1	28.4	30.7				0.2	0.1



【児童質問紙の結果についての考察】

1 学習状況について

- 国語、算数に対して、比較的学習意欲をもって取り組んでいる。
- ノートに、学習のねらいやめあてを書いていることは、子供たちの学習意欲を喚起する問題解決的な学習方法として必要なことである。全校的に取り組んできた成果といえる。

2 学校生活の状況について

- 学校に行くのは楽しい(学校生活は楽しい)と回答している児童の割合は、7割に近く、都平均に比べて10ポイント以上高い。また、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」は、半分以上の子供が(+9.7p)、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」については8割は(+8.0p)、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は7割以上の子供が当てはまると回答している。

このことは、本校の子供たちが集団の一員として学級や学校のよりよい生活づくりに参画したり、将来に向けてもそうありたいと思ったりしていると考えられる。

- 「自分には、よいところがあると思いますか」は24%(-13.4p)、「自分には「将来の夢や目標をもっているか」(-3.7p)である。一方で、6月5日実施のQUアンケートでは、同学年の子供たちが自己有用感をもって学校生活を送っていることがうかがえたことから、具体的に回答できなかった子供たちもいたのではないかと思われる。今後は、「日常の言葉かけで子供を伸ばす」ことに心がけていきたい。

3 学校図書館の活用について

- 読書が好きと回答している児童が、都の平均と比較して、15ポイント低い。また、読書時間は、6割の子供がほとんど読書の時間をとっていない。
- 読書傾向に関連して、昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館に月一回以上行くと回答している児童の割合は約6割で、あまり図書館活用が活用されていない。

- 学校図書館の活用については、読書学力向上と健全育成の両面から学校組織全体で検討していく。

今後の課題として、読書好きの子供を増やし、確かな学力、豊かな人間性を育てていく。さらに、教科・領域等で積極的に学校図書館を活用した探究的な学習活動等を行い、子供の情報活用能力を育む。

国語 A：主として知識

分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	71.9	72.3	70.0
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	1	64.0	57.4	53.0
	書くこと	1	89.5	87.7	86.0
	読むこと	4	59.3	59.0	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9	77.4	78.6	77.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	1	64.0	57.4	53.0
	書く能力	1	89.5	87.7	86.0
	読む能力	4	59.3	59.0	55.2
	言語についての知識・理解・技能	9	77.4	78.6	77.2
問題形式	選択式	7	70.8	69.4	66.4
	短答式	7	73.1	75.2	73.7
	記述式	0			

国語 B：主として活用

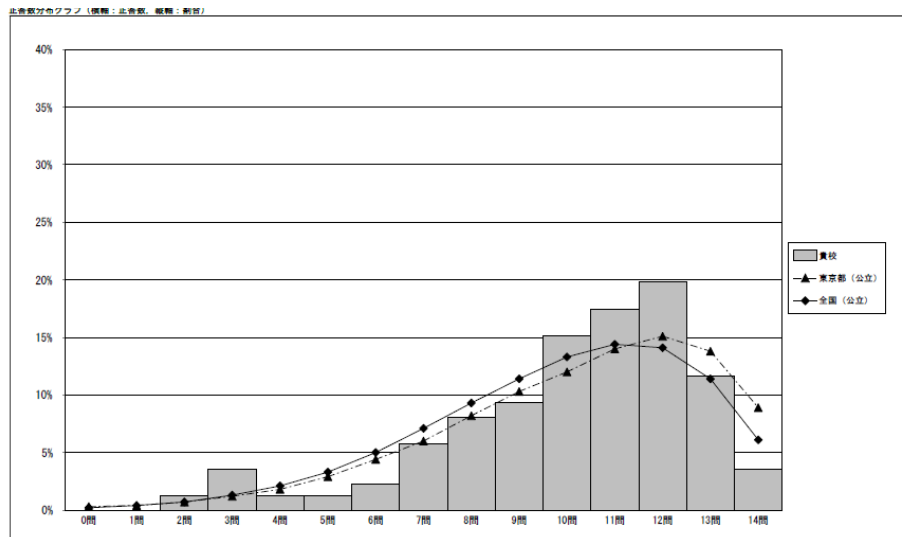
分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		9	67.4	66.5	65.4
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	6	62.8	62.2	61.1
	読むこと	6	69.4	68.6	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	54.7	55.7	55.4
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	6	62.8	62.2	61.1
	読む能力	6	69.4	68.6	68.1
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	3	75.2	71.1	68.6
	短答式	2	81.4	81.5	80.8
	記述式	4	54.7	55.7	55.4

【国語の結果についての考察】

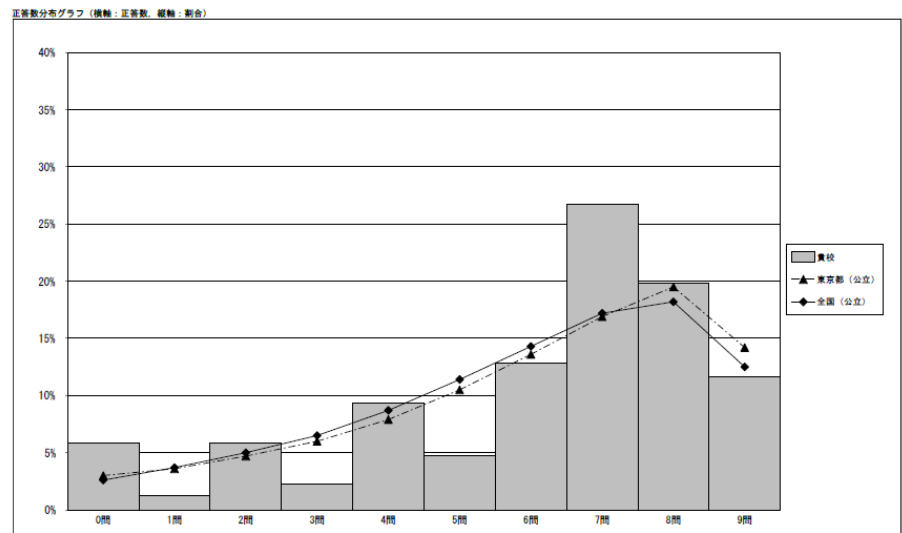
- A問題（基礎的・基本的な知識・技能が身につけているかどうかをみる問題）では、これまでの指導の中で、「話す・聞く」の領域の指導でよい成果がみられる。
- A問題の中で、「コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く」（設問5-2）に正答率が低かったり、「文の主語として適切なものを選択する」（設問2-1）では比較的誤答が多かったりした。文章を構造的に読み取ることに課題があり、指導の充実が求められる。
- B問題（基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題）では、相当数の子供が都の平均程度にできている。
- 誤答が多かった問題として、「インタビューの内容をまとめて書く」（設問1-3）「楽器の分担図を読み取りながら、楽器の分担の決め方について書く」（設問2-3）という問題は、適切に読み取った内容を書くことに課題があり、本年度校内研究で取り組んでいる、読み取る力の向上に期待する。

【正答率の分布】

1 A問題



2 B問題



算数 A：主として知識

分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	東京都 (公立)	全国(公 立)
全体		16	78.0	77.4	75.2
学習指導要領 の領域	数と計算	7	80.1	81.4	80.1
	量と測定	3	73.6	73.6	71.3
	図形	4	70.9	69.2	64.5
	数量関係	2	91.3	85.4	84.9
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	7	75.7	78.2	77.2
	数量や図形についての知識・理解	9	79.7	76.8	73.6
問題形式	選択式	5	77.4	73.8	70.5
	短答式	11	78.2	79.0	77.3
	記述式	0			

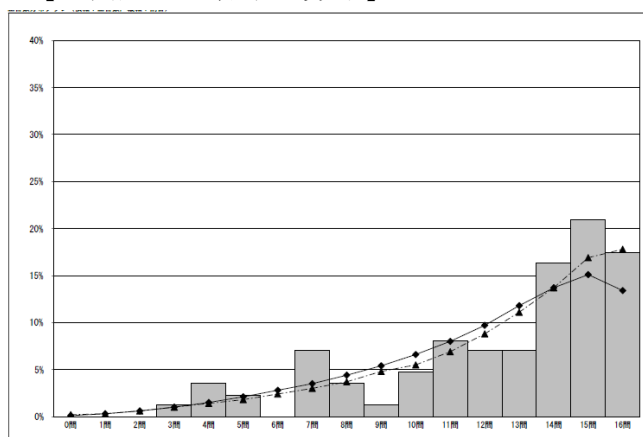
算数 B：主として活用

分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		13	45.9	47.8	45.0
学習指導要領 の領域	数と計算	4	43.7	45.3	42.4
	量と測定	3	44.8	44.6	41.7
	図形	7	48.1	48.5	45.6
	数量関係	3	43.3	45.8	43.0
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	9	38.3	38.6	35.3
	数量や図形についての技能	2	54.0	60.7	58.7
	数量や図形についての知識・理解	2	71.8	76.2	74.9
問題形式	選択式	3	70.5	72.7	70.6
	短答式	5	43.2	45.9	42.2
	記述式	5	33.8	34.7	32.5

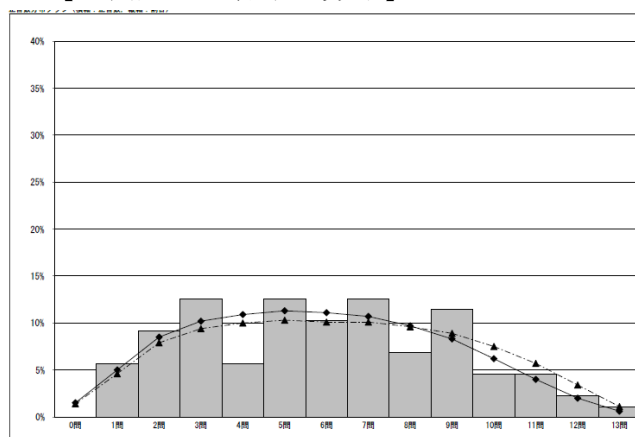
【算数の結果についての考察】

- A問題（基礎的・基本的な知識・技能が身につけているかどうかをみる問題）では、都の平均程度にできている。
- A問題の中では、「 $5/6 \div 7$ 」（設問2（4））また、「円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の、角の大きさを求める」（設問5（2））の正答率が低い。
 分数の四則計算は、小学校段階で確実に身につけておかなければならない技能であり、今後の習熟度別指導、補充教室などで繰り返し指導する必要がある。
- B問題（基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題）では、都の平均と比較すると良好である。
- B問題の数量や図形に関する問題では、「作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ」（1（2））、「合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、 \textcircled{A} の角が 30° になるわけを書く」（3（2））の正答率が低かった。
 さらに、「20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く」（設問2（2））では、正答率が10%しかなく、都の平均と比較しても-8.2pであった。
- 「四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く」（4（1））は、都の平均と比較して-9pであった。
- 本校の算数の指導上の課題は、下記のグラフで示すように、学力の2極化が顕著である点である。

【A問題の正答率の分布】



【B問題の正答率の分布】



- この課題については、今後とも算数習熟度別の指導で、下位のグループに対して、より一層のきめ細かい指導体制を組むと同時に、各学級において、繰り返し課題を与えたり、家庭学習の充実を図るなど、個に応じた指導の工夫が必要である。

理科

分類	区分		対象設 問数 (問)	平均正答率(%)		
				貴校	東京都 (公立)	全国(公 立)
全体			24	61.6	62.4	60.8
枠組み	主として「知識」に関する問題		9	60.9	62.4	61.3
	主として「活用」に関する問題		15	62.1	62.4	60.5
学習指導要領 の区分等	A区分	物質	7	59.4	59.6	57.4
		エネルギー	6	63.6	66.5	65.6
	B区分	生命	6	61.9	62.0	61.2
		地球	7	60.6	60.1	57.8
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度		0			
	科学的な思考・表現		15	62.1	62.4	60.5
	観察・実験の技能		5	53.1	57.1	55.5
	自然事象についての知識・理解		4	70.7	69.0	68.6
問題形式	選択式		18	64.0	64.5	62.9
	短答式		3	58.6	64.6	63.6
	記述式		3	50.6	47.9	45.3

- 観察・実験の技能については、指導の充実を図る必要がある。理科についても、問題解決的な学習の展開に工夫し、観察・実験に子供たちが意欲的・主体的に取り組む学習の展開を重視していく。